

第 10 回関東甲信越地域小児がん医療提供体制協議会概要

令和 4 年 9 月 2 日、第 10 回関東甲信越地域小児がん医療提供体制協議会が国立成育医療研究センター・オンラインにて開催され、関東甲信越地域小児がん医療体制協議会参画施設、関東甲信越各都府県庁、厚生労働省健康局がん・疾病対策課、小児がん中央機関が参加した。(出席者名簿)
開会にあたり、協議会会長五十嵐隆理事長(国立成育医療研究センター)より挨拶があった。
また、厚生労働省健康局がん・疾病対策課上野課長補佐より挨拶があった。
構成施設について、国立成育医療研究センター富澤先生より紹介があった。

(報 告)

1. 小児がん拠点病院からの報告(資料 1)

○神奈川県立こども医療センター柳町先生より、関東甲信越ブロックにおける 4 拠点病院の取り組み、関東甲信越ブロックの今年度の計画について報告があった。

2. 相談支援部会からの報告(資料 2)

○国立成育医療研究センター鈴木医療社会事業専門員より相談支援部会の活動について報告があった。
・今年度より相談支援部会の開催が年 1 回から 2 回となった。
・第 1 回の相談支援部会では、事例検討を行いトランジションについて取り上げた。
次回は 1 月 27 日に開催予定。
・昨年度より関東甲信越ブロックの小児がん相談支援研修を開始し、第 1 回は「教育支援」をテーマとした。次回は 11 月 5 日に開催予定。

3. 新型コロナウイルス感染拡大による「小児がん診療現況調査」についての報告(資料 3)

○国立成育医療研究センター松本先生より、事前のアンケート結果について報告があった。

(議 事)

4. 群馬県の取り組み(資料 4)

○群馬県立小児医療センター河崎先生より、群馬県の小児がん診療体制について報告があった。
・研修のグループ(群馬小児血液・がん臨床・研修連携グループ)ができたことで、合同症例カンファレンスや、北関東小児血液カンファレンス、群馬小児がん研究カンファレンス、群馬小児がんセミナー等を行い、群馬のがん診療体制のレベルアップを図っている。

5. 横浜市の長期フォローアップ外来への補助の取り組みについて(資料 5)

○横浜市医療局がん・疾病対策課古賀課長より、横浜市内で令和 4 年度からの新規事業として開始した、小児がん長期フォローアップ推進補助事業について報告があった。

6. 小児がん連携病院の指定について（資料 6）

- 国立成育医療研究センター松本先生より、2023 年度小児がん連携病院指定要件について報告があった。
 - ・類型 1 について診療能力に応じて 1-A、1-B の 2 段階に分類してはどうか。
 - ・類型 1 に関してがん診療連携拠点病院の都道府県協議会への積極的参加、院内がん登録の実施、現況報告・QI の実施等が指定要件として整備指針に定められている。
 - ・類型 1-A の要件である、「小児がんについて年間新規症例数が 20 例以上であること」を満たす小児がん連携病院が存在しない県がある、という課題がある。類型 1-B に対してもがん診療連携拠点病院の都道府県協議会への積極的参加を求める。
 - ・小児がん連携病院指定のスケジュールについて、拠点病院が指定することになっているため、来年 4 月以降に行うことになっており、連携病院の指定が遅くなってしまう。
そのため、連携病院の指定を 2023 年 6～7 月を目安でできる限り早い時点で指定すること、それに伴い当協議会も来年度より 7 月に開催することが提案された。

- 厚生労働省健康局がん・疾病対策課上野課長補佐より追加で報告があった。
 - ・現況報告書は 9 月前半には発出し、例年通り回収予定。
 - ・小児がん拠点病院の指定について、がんゲノム医療拠点病院が同年度に指定の検討が行われることの兼ね合いで、12 月頃に検討会が前倒しになることが検討されている。
 - ・診療機能の差について今回は症例数で区切っているが、弊害があれば次回の改定以降検討する。
 - ・類型の兼任は全国的に不可とする予定。

- 国立成育医療研究センター富澤先生より連携病院の指定期間延長、協議会の開催時期変更について提案された。
 - ・現在の連携病院は今年度末で指定が切れるが、新しい拠点病院のもとで連携病院が指定されるまで空白期間が生じるため、連携病院の指定が決まるまで現在の連携病院の指定期間を延長することに対して異議がなく、承認された。
 - ・当協議会が来年度より 7 月に開催されることに対しても異議がなく、承認された。

7. 小児がん地域計画書について（資料 7）

- 国立成育医療研究センター松本先生より、小児がん地域計画書について報告があった。

8. 事前アンケート結果（資料 8）（別紙 1）

- 国立成育医療研究センター米田先生より、事前のアンケート結果について報告があった。
 - ・病棟でのインターネット環境についてのアンケート結果について、社会的に注目されていることでもあり貴重なデータなので、公の場への公開利用を諮ったところ、異議はなかった。

9. 総合討論

- ・「グローバルゴールドセプテンバーキャンペーン」、「世界のすべてのがんの子どもを救おう」「第 3 回希少がん患者サミット」について、国立成育医療研究センター松本先生よりお知らせがあった。